議　長	副議長	局　長	次　長	参　事	主幹	補佐・主査	係　長	担当書記

出張報告書

下関市議会議長殿　　平成３０年１１月２７日

職氏名	用　務
林　　真一郎	小中一貫校への取り組みについて 東京都武蔵村山市 ・村山学園（施設一体型）現地 三鷹市 ・市庁舎　『にしみたか学園』他6学園
期　間 平成３０年１１月２０日から 平成３０年１１月２１日まで	出張先 東京都武蔵村山市、三鷹市

東京都武蔵村山市　村山学園

調査日　　１１月２０日（火）

講　師　　武蔵村山市立　小中一貫校　村山学園

統括校長　齊藤　実　氏

武蔵村山市 教育部 教育指導課　指導・教育センター

担当課長　勝山　朗　氏

事務局担当者　　次長　　小林　真　氏

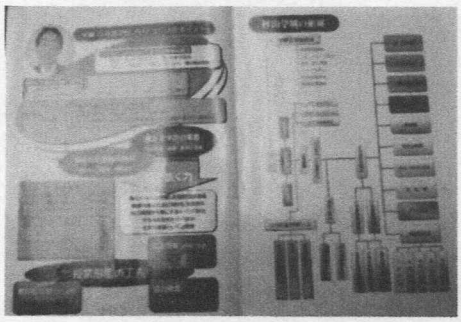
意見・調査事項

≪調査事項≫

村山学園裏手には、最盛期6000世帯を越す公営住宅が立ち並び、団地に居住する児童生徒の為に建設された市立第二中学校と市立第四小学校が　施設一体型　小中一貫校 村山学園としてH22 開校した。経緯をお聞きすると既に取り入れられていたｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ 制度により設置された学校運営委

員会においてH16検討委員会が設置され、基本計画～小中一貫教育カリキュラム策定を経て開校への道が開かれています。

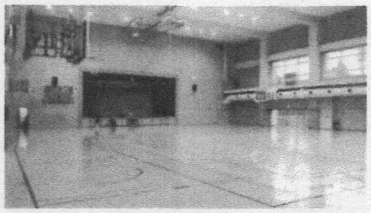
『小中一貫教育とは？』との問いには『中学3年生時に、生徒達がどの様な姿であればよいか』について、そのイメージを教職員・保護者・地域が共有していること。『何の為に？』との問いには『学力向上と生活指導の向上』を挙げられた。　本地域の住人は低所得者・一人親世帯の比率が高く、養育が十分に行われていない児童生徒も多く、学業に対する向上心も低く、家族旅行・外食等の経験が無い子も多かった。



写真左は、齊藤実校長の下で作成されたH25とH30の学園組織と教育活動を示したﾊﾟﾝﾌでえすが大きく進化の跡が伺えます。特に宿泊学習・校外学習において小学4年生から様々な体験が出来るよう工夫されています。

昨今の学習成果として、①地域の行事に積極的に参加すること。②授業の準備を自ら行うことが出来るようになっている。点をあげられました。
地域の行事については年間スケジュールが、授業対策については自宅に学習環境が整っていない生徒の為の自習コーナーや5000種類に及ぶ教材(ﾌﾟﾘﾝﾄ)が用意されており、自分の意思でそれらを利用し学習出来る環境を整備しているとのこと。

１～９年生までが在籍する環境の中、上級生が下級生の学習援助をしたり、目標とする（憧れる）先輩の存在が様々な点で効果を発揮している。



施設一体型への施工は、当初からそれを想定していたか？分かりませんが200mを越え、一直線に校舎が並んでいたそうで、中間部分を繋ぎ、柔剣道場＋体育館が建設、プール小学生用の既存プール並列に中学生用プールが設置されていました。

調査日　　１１月２１日（水）
講　師　　三鷹市 教育委員会　指導課　教育施策
担当課長　福島　健明　氏
事務局担当者　西村　　氏

意見・調査事項

≪調査事項≫

中一ギャップといった学校種間の段差の解消、不登校生徒急増・学力未定着(低下)等への対応　といった観点から H15.4『三鷹市小・中一貫教育校基本計画検討委員会』設置、検討結果等を提示・説明会を行ったが理解得られず一旦白紙。

仕切り直して平成18年4月『にしみたか学園』が最初に開園。
同時期に制定された自治基本条例 第33条には、一、保護者、地域住民等の学校運営への参加を進めることにより、地域の力を活かし、創意工夫と特色ある学校づくりを行う。一、学校を核としたｺﾐｭﾆﾃｨｰづくりを進める　として、ｺﾐｭﾆﾃｨｰｽｸｰﾙを基盤とした小・中一貫教育が目指されています。

三鷹市内には　小学校15校(児童数 8,920人)、中学校7校(生徒数　3,228人)教員数　小：約400人、中：約200人で構成されています(H30.5)。H18のにしみたか学園に続き、残る6つの中学校がそれぞれ校区内の小学校と共にH21.9迄にそれぞれ小・中一貫教育を行う学園となりました。

教育理念として　一、質の高い教育をどの学校(学園)においても保証する。
一、地域全体で『共に』子供を育てる　を挙げ、学校自由選択制は無い。

児童生徒はそれぞれ旧来の学校へ通い、それぞれの諸行事も学校毎に行う
学園の記章・旗・園歌等は制定されているがそれぞれの学校のそれらも現存。
それぞれの校長先生の中から統括学園長を決め、他は副学園長となる
義務教育9年間の学びと15歳の姿に責任をもった教育を実現する為のカリキュラム策定を行う

ｺﾐｭﾆﾃｨｰｽｸｰﾙの二つの機能として、
一、学校への参画：ｺﾐｭﾆﾃｨｰｽｸｰﾙ委員会での協議を通して
一、教育活動への参画：教育ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等、学校教育への支援
◆学校と地域が目標・ビジョンを共有する。◆学校と地域がパートナーとして連携・協働する。◆『地域に開かれた学校』⇒『地域とともにある学校』へ